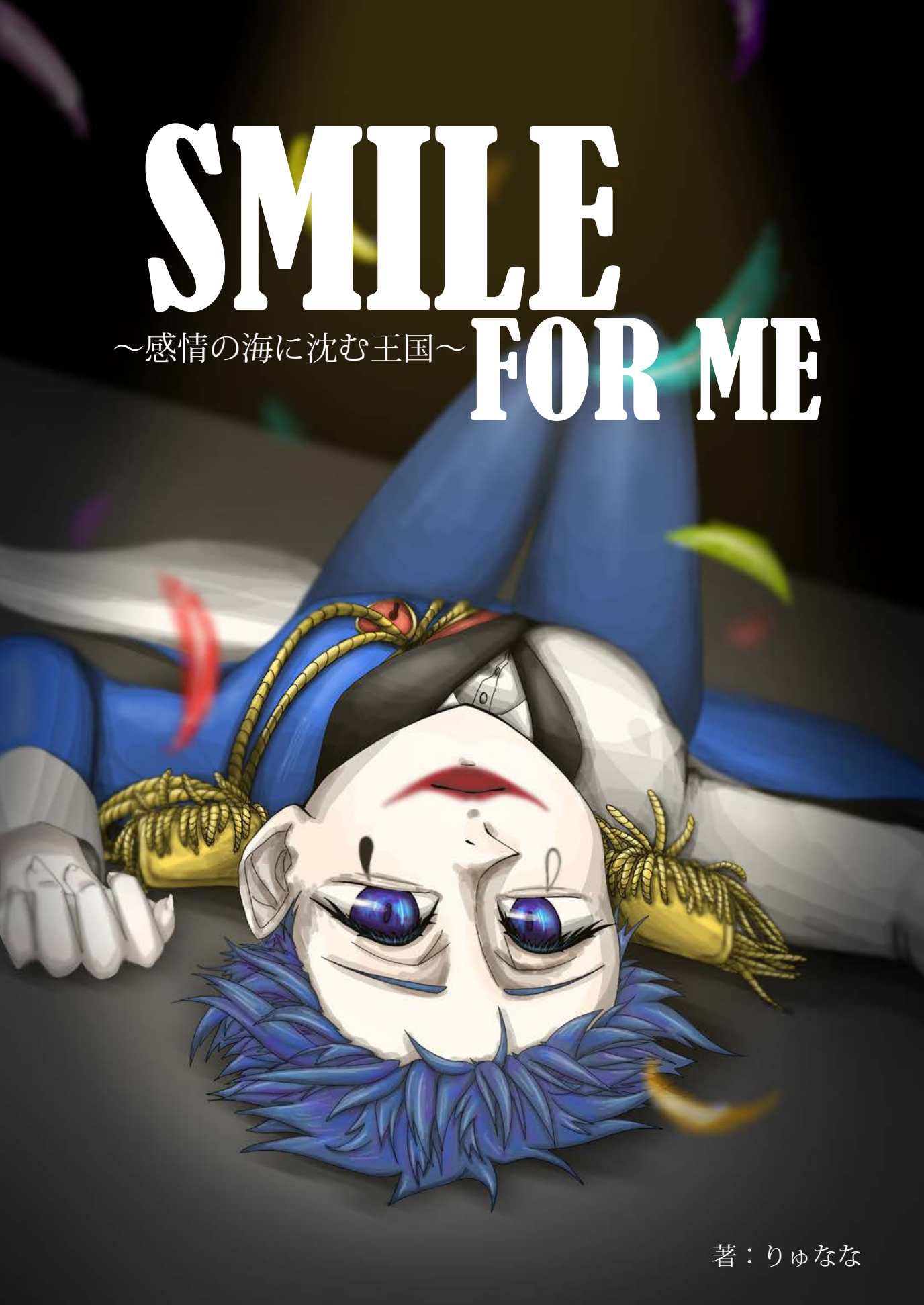
SMILE FOR ME

～感情の海に沈む王国～



著：りゅなな

プロローグ

紳士ならびに淑女諸君

このちっぽけな紙の束をお手に取っていただき
ありがとうございます。

普段何気なく揺れ動く心。
喜び、怒り、悲しみ、楽しさ。
我々人間には
そのほかたくさんの感情がありますね。

こちらではそんな様々な感情について
とある事件を添えて
ご紹介していきます。

おっと、申し遅れました。

私はここの案内役

王宮音楽隊隊長「ルイス」と申します

実をいうと、私もこの事件の関係者なんですよ

この後私自身のことも紹介いたしますので

まずはこの事件を簡単に説明しましょう。

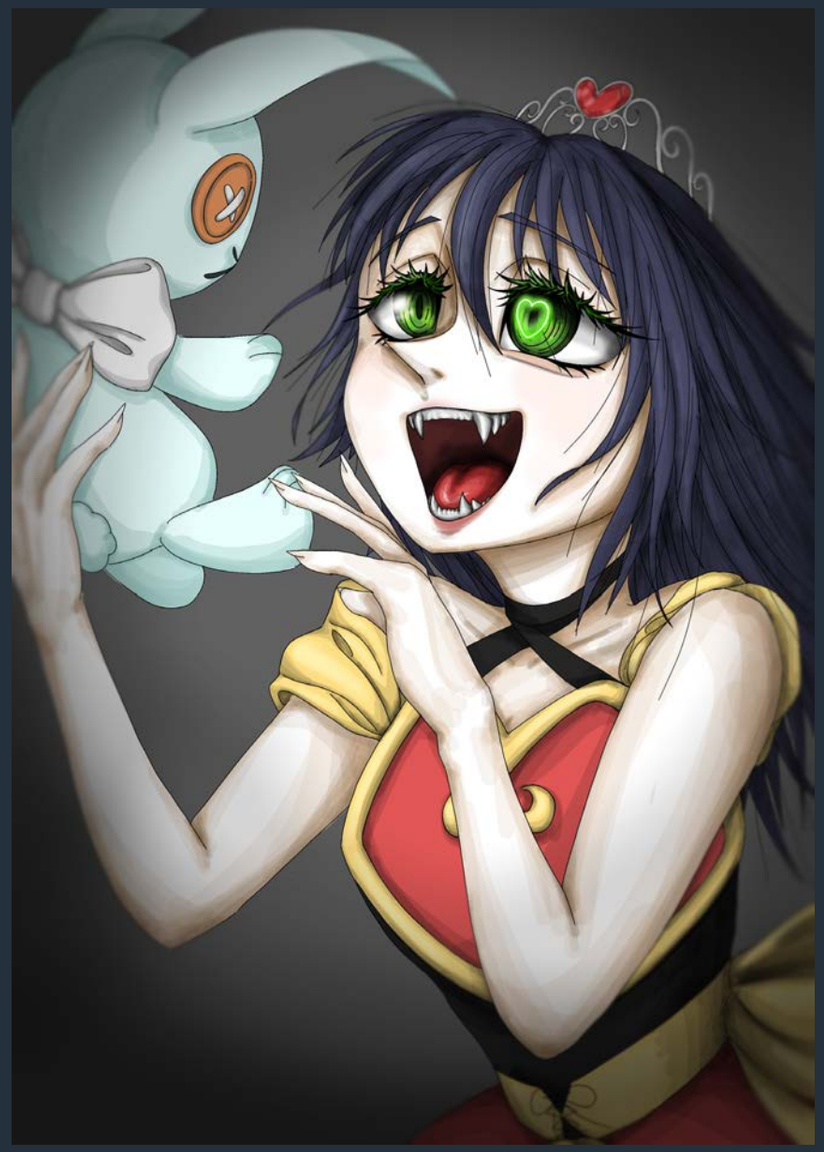
とある王国で起きた、連続殺人事件。
事件は一人の少女が殺された夜から始まり
そこから一人また一人と
消えていく者たち。
初めに命を奪われた少女は、
頭髪や肌まですべてが真っ白な人間
今はうす暗い廃墟に安置されている。
生き残った者はもう少ないが
未だこの事件の犯人は捕まっていない。

さて、
貴方には、この事件は
如何にして起こったのか
犯人は誰なのか
すべてお話いたしましょう。

目次

1. 表紙
2. プロローグ
3. 事件について
4. 目次
5. 歓喜
6. 楽観
7. 後悔
8. 癒し
10. 悲観
11. 憂鬱
12. 嫉妬
13. 錯乱
14. 無
15. エピローグ・編集後記
16. 裏表紙

歓喜



「歓喜」の感情

歓喜とは非常に喜ぶこと。また，大きな喜びのことを言います。たとえば、誰かからずっと欲しかったものをもらったとき。勝てないと思っていた相手に勝ったときや、無くしてずっと探し続けていたものをみつけたとき。生きていれば「嬉しい」と感じることはたくさんあるはずです。「歓喜」はそんな「嬉しい」の最上級とも言われているのです。ただ、悲しいことに「歓喜」というものはそう長くは続きませんね。

ベラ・ポップルウェルの憂鬱

彼女はこの王国の女王であり、かつて私の実の姉であった人だ。彼女は幼いころから動物の人形ばかり集め、いつも王宮を抜け出しては小さな花が一面に咲いた丘で遊んでいた。そんな無邪気で可愛らしかった彼女だが、大人になってからというもの、なんだか変わってしまいましてね。人形は未だに集め続けているが、最近は…珍しい生き物を集めるようになりました。両腕の代わりに両翼のある人間に、蝶のような髪をもつ生き物など。白髪の少女も彼女の所有物とされていた。珍しい生き物を集めては、見世物のように王宮で芸をさせていたそうだ。なんと残忍な…。
そんな彼女は、息絶える直前こう言い残したそうです。
「片目に月が宿る少女に、ステキな贈り物をもらったわ。愛する娘にそっくりなお人形よ、その胸に耳を当てれば鼓動さえも聞こえてきた。小さくて柔らかくて、でもだんだんと熱くなって…もうあの人形を眺めることも、娘を抱きしめることも、ごめんなさいと言うことも許されないのね…。」
火薬の匂いが漂う王宮のバルコニーで、彼女は眠りについたという。

楽観

「楽観」の感情

物事をすべて良いほうに考える、ということ。「きっとなんとかなる」「失敗は成功の基」なんてお気楽な考えや、「いつか王子様が…」なんて考えも楽観の一部でしょう。ただし、楽観とはその場しのぎのためであって、残念ながらその運命からは決して逃れられません。

夢堕ち（ハッピーエンド）

ジョン・クラウンという名のこの男。彼は道化師であるのにも関わらず、派手な化粧をしないというなんとも変わった人間です。私と共に曲芸をやっていた頃から彼は陽気で楽観的で、多くの人々から愛されていました。この事件で亡くなった白い少女は、彼とかなり親密な関係だったようで、よく二人並んで歩いている姿を私も目撃していました。そんな幸せな彼を襲った悲劇…

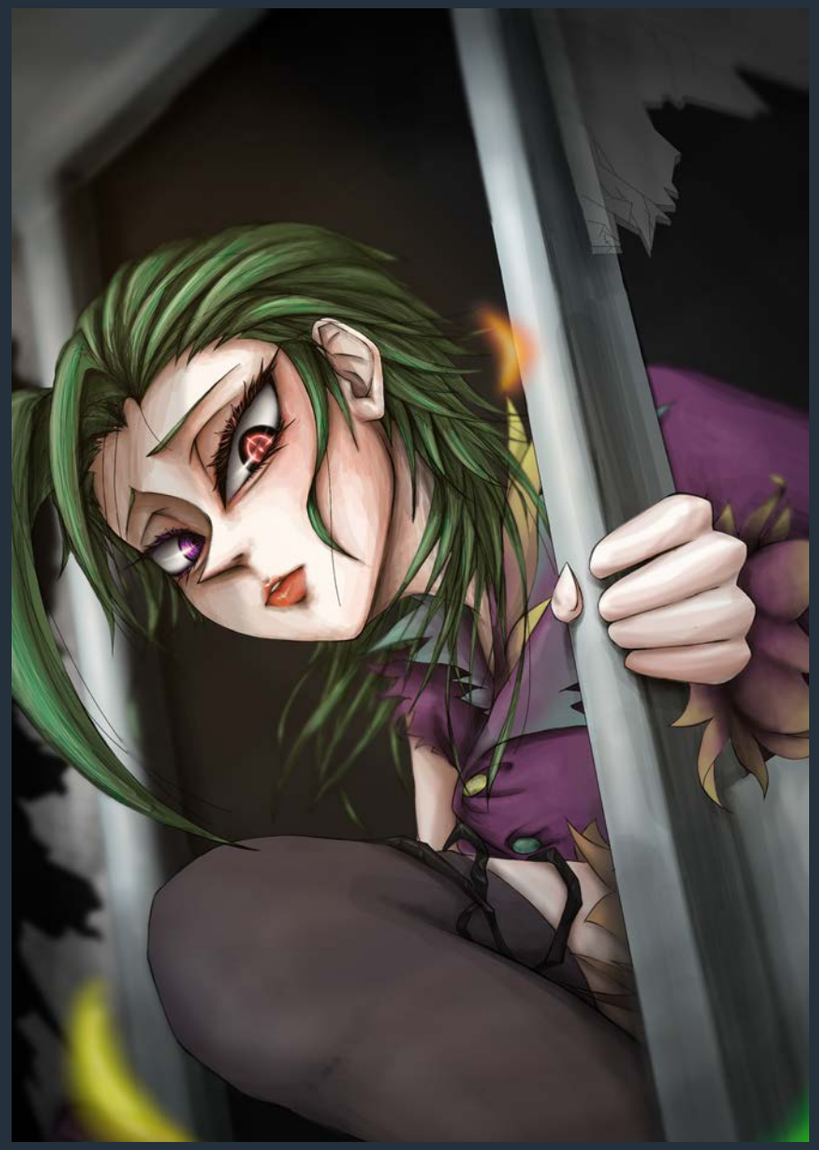
大切なあの少女を失い、珍しく悲しみに暮れた様子の彼は、ある女性と壊れかけた観覧車に乗りました。その女性は彼に、白い少女の最後の言葉を伝えていたそうです。しかし彼が少女の遺した言葉を聞き終える前に、その女性によって乱暴に空中へと放り出されてしまいました。サーカスではよくある光景…

耳が痛む程の破裂音が響き渡る中、彼は幸せそうに笑っていたそうです。

後悔

「後悔」の感情

後悔とは、過去に起こったことに対して不安や悲しみを感じること。あの時買っておけばよかった、こう言っておけばよかった、あんなことしなければ…なんて考えてしまって、苦しくなることありますよね。後悔とは自分を見つめなおす手段にもなりますが、多くの場合自分で自分を傷つける手段にされてしまいます。そして最悪の場合、後悔は自分以外の人間をも巻き込み、被害を拡大させてしまうのです。溜め込みすぎ注意、ですね。



人離れ

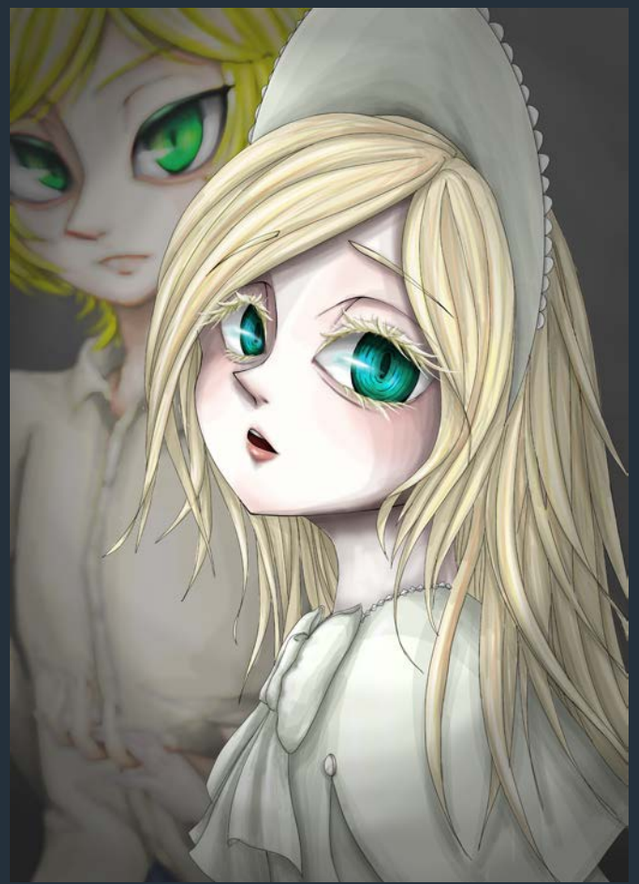
彼女の名はアメリア。普段は私の音楽隊の隊員として生活しており、面倒見がよく忠実で、いつも故郷の家族や以前親しかったのことを話してくれる良い女性です。彼女は、国境の橋の下でうずくまっているところを私に拾われました。家族のために稼ぎたいと願う彼女は、音楽隊に入隊し、練習も本番も熱心に取り組む姿を見せてくれました。金に目がない…ところはありましたが、他の隊員にも優しく、誰よりも私を慕っていました。だがそんな彼女にあんなことができようとは私は思いませんでしたよ。

彼女は、ある日人間を殺しました。彼女が殺したのは、あの純白に輝く少女。私もそのことを耳にしたときは驚きました、ましてやその彼女本人が私にそう話してきたのですから。「あの感覚は忘れられない」と彼女は言いました。まだ殺し足りないとでも言うようで、殺人鬼も震え上がる言葉ですね。なんて話しているうちに、彼女はその言葉がもっと恐ろしく感じることをしました。

他の隊員をも巻き込み、彼女はまた一人、人を殺めたのです。そう、負の感情に苦しむ道化師を、崩れかけた観覧車へ言葉巧みに誘いこみ、突き落としたのは彼女。何とも恐ろしい話ですね…

ですが残念なことに、彼女はその直後に自らを殺してしまいました。

癒し



「癒し」の感情

癒しとは、肉体の疲れや精神の悩み、苦しみを解消したりやわらげたりすること。人間誰しもが求める癒しですが、それを受ける方法や手段は人それぞれ。音楽から癒しを受ける者もいますし、動物や食事や睡眠から受ける者もいます。普通、今の自分が生きる世界に疲れを感じ、そこから一時的に逃げるために人々は癒しを求めますね。そんな癒しにも永遠があるという話を聞きますが、それは心身を病んだ人間を陥れる罠にしかすぎません。

生まれ落ちたあの日から

ある村に双子の女の子がいました。片方は漆黒の髪を、もう片方は純白の髪をもつ少女たち。そのうちの純白の少女は、その珍しい容姿によって生まれたその日から争いの元になっていました。人々は彼女を神の子・救いの子と呼び奪い合う。カーラ・シィヴァと言う名の白い少女は、双子の姉と共に村を抜け出し、この王国にやってきました。お腹を空かせ城へとたどり着いた少女たちは、救いを求め女王に話をしました。しかし、相手はあの女。カーラだけが暖かい部屋に迎え入れられ、黒髪の少女は薄暗い地下で雑用として雇われる始末。それからというもの、カーラは女王のために歌い踊る日々が続きました。ひどい話ですよ、カーラは着るものも部屋の中の家具も、食べるものさえも白色で統一されていたそうです。そして日光に弱いカーラが出かけられるのは夜だけ。そしてそんな日々が続く中、カーラはあの女性に出会います。それこそ私の忠実な隊員、アメリアです。アメリアはまず初めに「普通の人間になれる薬」と言って毒薬を渡したそうですが、彼女は信じなかったようです。アメリアは、自身に不信感を抱き部屋を離れようとしたカーラを、後ろから刺しました。アメリアのような人間でも、彼女の美しい容姿を正面からは傷つけられなかったようですね。
殺されたカーラの身体は、密閉された硝子の棺に納められ城の地下に眠っています。双子同士寂しがることのないようにと、双子の姉の部屋の隣に。

悲観

「悲観」の感情

悲観とは最悪の未来を予想することや、この世の中を悪いものだと考えること。悪いことが続いた時や、生きる気力を失うほどの最悪の出来事を経験した時に悲観はやってきます。自らを殺める原因にも、怒りや復讐心が生まれる原因にもなる感情です。

この息が止まるその日まで

薄暗い地下で泣き続ける黒髪の少女。彼女の名はルルナ・シィヴァ。白い少女カーラの双子の姉であり、王国の城の地下室で働く雑用係でした。カーラの亡骸を見たその日から、彼女は今も泣き続けています。普通の人間として生まれ、妹よりも長く呼吸し続ける自分を恨み続けているのです。薄暗い地下、冷たい風、流れ続ける涙、止まらない鼓動。泣き続けた彼女の服は、涙を吸い上げ重く冷たく湿って彼女の体力を奪い続ける。今のルルナにはもう、自分の首を締め上げる力すら残っていませんでした。乾ききった口から出る言葉は、すべて妹への謝罪。私の隊員の一人を、彼女のもとへ向かわせた際には
「どうか、このわたくしを殺してはくれませんか」と丁寧な口調で言っていたそうです。
泣いて悶えて傷ついて、それなのに彼女は美しい。

憂鬱

「憂鬱」の感情

憂鬱とは、気持ちが晴れ晴れとしないことや気のふさぐこと。憂鬱な気持ちに浸ると、何もやる気が起きなくなったり、嫌な思い出を思い出して悲しくなったりします。快楽や歓喜の後は、特に憂鬱な気分になりやすいようです。憂鬱な時こそ人間は正常な判断ができなくなてしまいます。

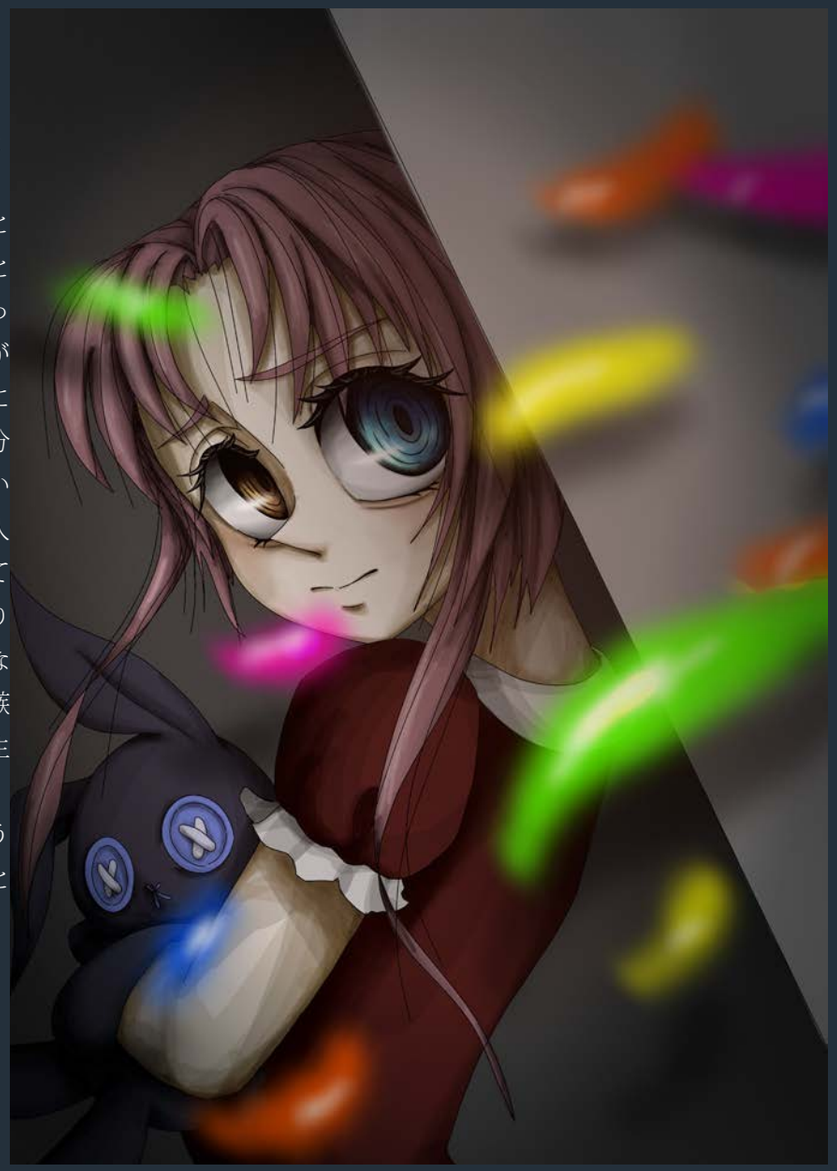
哀れな人生に救いのキスを

廃れた王国を、ニヤついた顔で歩く大柄の男。彼の名はクラール。引退軍人である彼にとっては、この光景は見慣れていることでしょう。彼は、常に薄ら笑いを貼り付けた顔をしていますが、その目だけは鋭く冷たい。ですがこう見えて彼も音楽隊の隊員なのです。彼は隊員としてはかなり優秀でした、トランペットもドラムも、フラッグさえ見事な動きを見せてくれました。ただ、彼が来てからというもの、彼のあの表情を気味悪がった隊員たちが次々にやめていってしまい…さらに彼はアメリアが突き落としたあの道化師を、わざわざ下から撃ち抜いてとどめを刺したと知った時には、私は驚きました。なぜそんなことをしたのかと彼に聞いてみたところ「あいつだけじゃないよ、僕が救ったのは」と。しかし彼はその後、自らを撃ち抜いて死んでしまいました。あの白い少女の棺の前で、置手紙を残して。
” 叶わぬ恋をしてしまった。こんな哀れな人生に、やっと救いを与えられる ”

嫉妬

「嫉妬」という感情

嫉妬とは自分よりも優れていると感じる人に対して妬みや嫉みといった感情を抱くこと。欲しかったものを他人が持っていることが許せない人、自分の大切なものに他人が触れることを嫌う人、自分より他人が目立つことが許せない人…嫉妬というものは恐ろしく人間らしい感情ですね。己の持っている美しさに気付けず、無理やりに自身のことを棚に上げ、罪のない他人を傷つけてしまいます。嫉妬とは、憧れがねじ曲げられて生まれた愚かな感情なのです。
それ故に嫉妬に身を任せるということは、怒りに頼るよりももっと危険なことです。



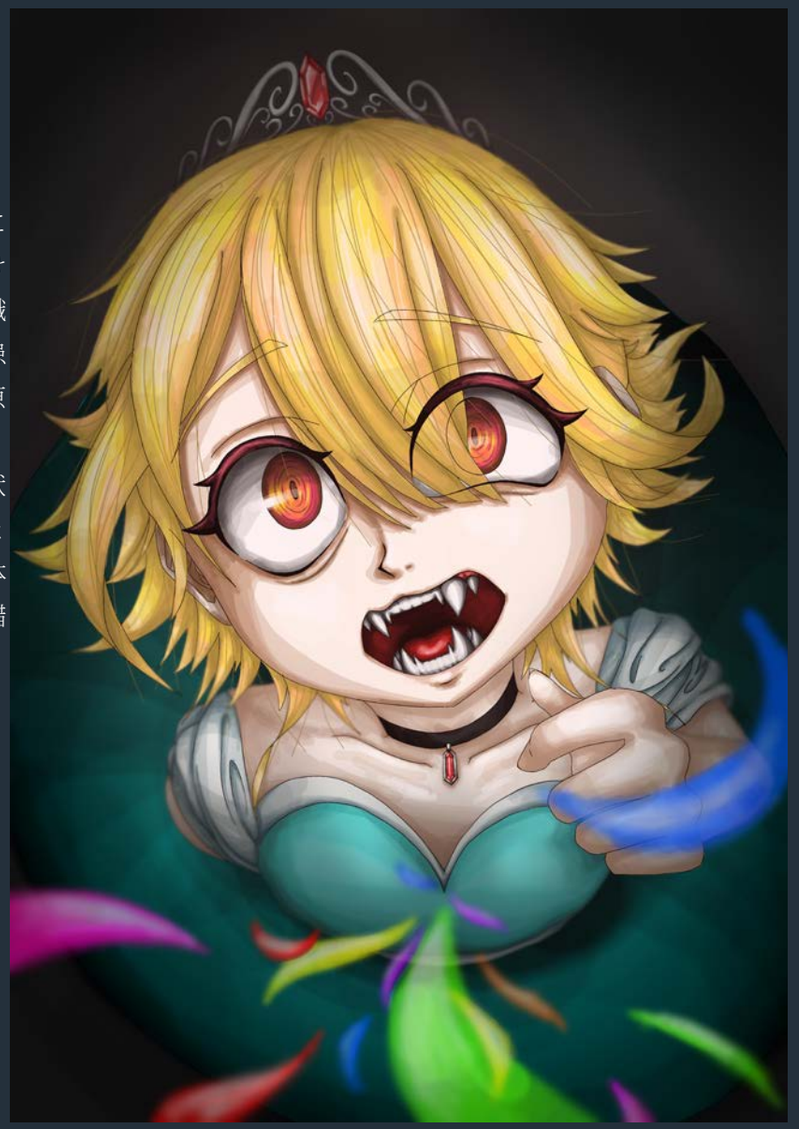
ひとりじめ

うさぎの人形を常に持ち歩く幼い少女、名前はシャーロット。それぞれ違う色の瞳を持つ彼女の、人形を作る技術は王国じゅうで有名でした。しかし私は、彼女とその人形に隠された秘密をよく知っています、限られた人しか知らない秘密をね。彼女は例の双子の片方、黒髪のルルナを一目見た時から気に入っていました。何度も何度も城を訪れては、会わせてほしいと泣いて懇願するほど。しかしいつ訪れても女王には断られたと伝えられるばかり…次第に女王への嫉妬が芽生えていきました。女王はあの子を独り占めしている、と。
ある日彼女は、女王への贈り物を持って城へ向かいました。女王の娘にそっくりな、うさぎの人形。人形好きな女王は、直接渡しにくるよう命じたそうです。そして彼女が女王に渡したもの、時限爆弾の入った人形。しかし、女王を殺害した彼女は、後に地下で待ち構えていた何者かに殺されたようです。

錯乱

「錯乱」という感情

錯乱とは、意識が混濁し，思考に混乱をきたすこと。普通とはかけ離れた精神状態であり、当然常識的な判断はできません。精神疾患やてんかんなどの病的なものが原因なこともありますが…。
健康で正常な人間がこのような状態になることは、あまりないでしょう。ただし、相当な精神的・肉体的ショックを受けた場合には、錯乱の状態になることもあります。

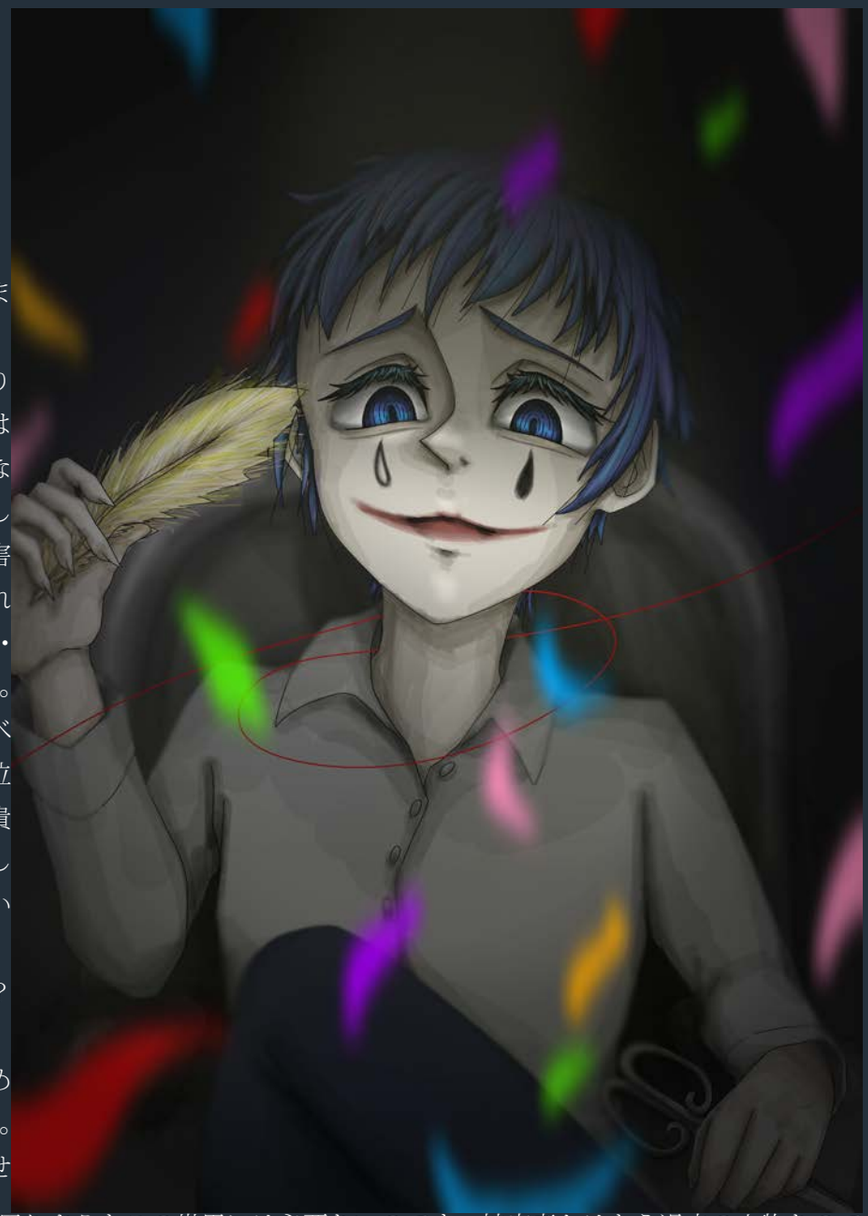


視界にあるもの

女王の娘として養子に迎え入れられた、彼の名はクロード・ポップウェル。童話に登場する「アリス」に似ていることから、王女として育てられた彼のことは実はよく知られていないのです。私もよく知りません。ただ一つ言えるのは…
彼は、あの道化師に起きた悲劇の一部始終を目撃しただけで、撃ち殺された、ということ。

無

感情の無い男



さて、長らくお待たせいたしました。私の番です。
この事件の犯人、皆様は分かりましたか？アメリア…彼女ではありませんよ。彼女も被害者なのですから。私が今まで紹介した人物は一人を除いて全員被害者です。誰がその一人か？それはあの美しい黒髪の少女ルルナ・シィヴァです。彼女は美しい。あの声あの髪あの涙さえもすべて私好みの完璧な少女です。泣いている彼女もまた美しい。貴方も彼女を見て思いませんでしたか？彼女こそ私にふさわしい完璧な女性だと。
そうです。もうお気付きですね？
その通り私がこの事件の黒幕…
私と彼女だけの世界を作るためにすべて仕組まれた事件です。
彼女以外には誰も必要ありません。彼女に近い人物そしてその周りさえもこの世界には必要ないのです。被害者とはもう過去の人物なのですから、そんな人間の過去も未来も命乞いも感情さえ私たちには必要のないこと。彼女に一番近い存在である、あの白い少女をはじめに手にかけたのは…彼女を逃がさないためです。美しく着飾られた妹をそばにおいておけば、彼女は決してそこから出ることはありませんからね。その間に余計な生ごみはゴミ箱へ…という話です。しかし危なかったですよ、顔見知りの小娘がまさか彼女に会うためにあんなことをするとは、思いもしませんでした。間一髪、顔も見れない場所で仕留めましたがね。その娘を仕留めた後に屋っと私は彼女に出会えました。やっとこの目で見られる彼女の姿。細くか弱い身体つき、疲れ果てたその目から流れる涙はやまない。彼女が私が来たことに気づいてくれた時、自分のしてきたことに誇りを持てました。
「はじめまして、私の愛しい妻よ。」

編集後記

幼いころから独特な世界観と言われてきました。
なかなか受け入れてもらえないこともありましたが、この雑誌を通して
やっと自分の世界観を広げられたと感じています。
普段私は、線画も塗りも遅いタイプなので、
イラストの数が多いこの雑誌にはかなり苦労しました。
ストーリを考えたりキャラクター名やそれぞれに感情を当てはめることも、
かなり難しかったです。
この雑誌内に登場する人物たちには、
なんだかかわいそうな気がしますが…ストーリー上仕方ないので許してちょんまげってことで。
自分で作って自分で読んでみた感想としては…
人間をやめた者は恐ろしいなって感じです。
まぁこんなストーリーを考え出す人間が一番
イカれてるのかもしれませんけどね。

「SMILE FOR ME ～感情の海に沈む王国～」
2025.01.08 発行
著：りゅなな　(Instagram : @luna_rainy)